HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学院演習 ： 家族と近隣（同居団体と自然近隣）
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1957
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77309
Type	manuscript
File Information	K012_0132.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10

家族と近隣
(同居団体と自然近隣)

昭和三十一年

大学院演習

鈴木

MITSUKOSHI

次回大学院講義

独立した内容をもつ社会意識による
相互扶助の一団が自然村であるとみる
ところに私の自然村の理念の中核
はあるとみる。その理念の独立した仮説的な
内容がはっきりと過去の世代にも未来
の世代にも及んでゆくところに、共通
の時空的同一性を明らかにする為に私は
村の精神という語を用いた過ぎない。
仮説的
同じ共通の理念による相互扶助の一団は
自然村の外にどんな形があるか。それが持続
的面接的集団である事は必要ありません
は勿論です。 所沼 Primary Group が

そんな持続的な和的集団であると知覚し
ようと考える人々は少ない。凡そ持続的
和的集団はいかなる集団よりも考えうる
ものについて考察は積極的でないことは
はれる。

かくのごとき集団の型である。

私の考への強調をこゝは同居団体と自然
近隣とかに置いてある。今日の都市生活
おいては来客も殆ど無く職場も遠く女子
供の中には結成さえ知らぬ人もあるやう
な近隣の代りに同じ趣味の人々の集まる
クラブ、同じ職業の人々の集まる組合、
うそ寒い、からっぽの社交場ばかりであ
ります。

持続的和的集団そこには共同の心への外

自然家族 と 広義家族
(同居家族) (行政家族 血縁家族)

自然 近隣 行政 近隣

自然地区等 行政地区等

自然村落 行政村落

自然都市 行政都市

これを存する倫理は、人道
主義である。